



TITLE:

# 京都大学附属図書館開館記念式典 に際して

AUTHOR(S):

沢田, 敏男

---

CITATION:

沢田, 敏男. 京都大学附属図書館開館記念式典に際して. 静脩 1984, 号外:  
1-2

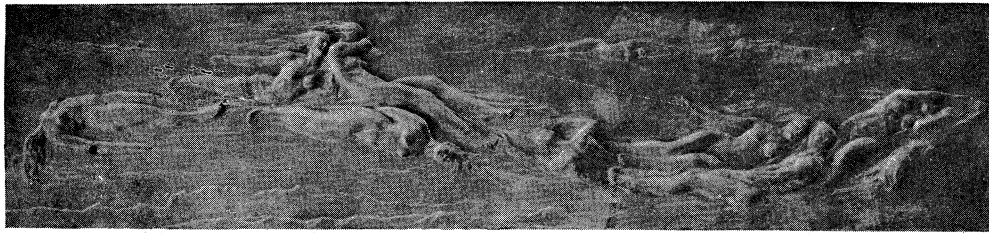
ISSUE DATE:

1984-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37822>

RIGHT:



# 静脩

1984年4月

号 外

The Kyoto University Library Bulletin

## 京都大学附属図書館開館記念式典に際して

京都大学総長 沢 田 敏 男



本学附属図書館では、去る3月21日(水)開館記念式典を挙行了。以下は、式典における、沢田敏男総長からのご挨拶です。

本日、ここに京都大学附属図書館新館の開館記念式を挙行されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本学の附属図書館は、明治32年に開設以来、今年で85年を迎えたのでありますが、この間、歴代館長のご尽力と館員諸氏のご努力によりまして、わが国屈指の大学図書館として発展、充実してまいりました。この八十有余年の歴史における図書館のたゆまぬ努力と教育、研究への積極的な寄与に対しまして深く感謝し、心から敬意を表するものであります。

戦後間もない昭和23年に完成いたしました旧図書館は、著しく老朽化し、また、新しい時代に即

応した図書館活動を展開するには手狭であり、その機能を十分に果すことができなくなってまいりましたので、早くから附属図書館商議会を中心にいたしまして、改築についての検討がすすめられてまいりました。

財政事情その他により早期実現は困難でありましたが、本日で臨席の前田前々総長、また岡本前総長の時代から、林前館長を中心として、全面建替えの要求を強力に展開された結果、昭和55年秋に予算内示があり、漸く実現する見通しが立つに至りました。そして、昭和56年12月に着工、昭和57年4月より高村現館長の就任を得まして完工に向けてご尽力いただき、昨年10月にめでたく竣工をみたのであります。この間の文部省のご理解とご尽力に対し、心から感謝申し上げますとともに、前田前々総長、岡本前総長並びに林前館長、高村館長はじめ、ご関係各位のご尽力に厚くお礼申し上げたいと存じます。

新しい図書館は、昭和56年から3年間にわたる計画で建てたのでありますが、その規模において旧館の約3倍となり、従前になかった施設、設備が設けられ、図書館活動の総合化を推進することが可能となりました。

このたびの図書館の完成によりまして、学生諸君の学習と教養の場がよりよい読書環境の下に提

供されるとともに、研究者のさまざまな情報要求にに応じていただき、図書館が真に京都大学の教育、研究を活性化する重要な機関として、全学の期待に応じていただくことが、何よりも大切なことであると考えます。

幸い図書館では、新館の運営と機能の一新を最重要課題とし、他大学に例をみないような施策をまとめ、着々実施に移しておられますことは力強い限りでございます。伝統あるわが京都大学の学術研究の一層の進展のために、館員諸氏が意欲にみちた図書館づくりを目指していただくならば、図書館が益々その精彩を放つものと存じます。

今日、情報化時代と言われるように、学術情報量が飛躍的に増大する中で、大学図書館をとりまく環境は大きく変わっていると思います。情報資料の選択、収集、図書館利用のあり方など大学図書館に課せられている問題は、大学教育、研究の進展に深くかかわるだけでなく、今や国際的な広がりにおいても考えるべき問題をはらんでいると考えます。特に学術の国際交流が盛んになってまいりました昨今、この面での図書館の果たす役割も、

きわめて大きいものがあると言わなければなりません。

本学の図書館が、当面する諸問題に積極的に取り組まれ、よりよい図書館づくりを目指し、斬新な活動を展開していただくよう期待をいたします。私は全学的な理解によって、大学挙げて図書館活動の活性化することをバックアップする所存でございます。今、私は新装になりました本図書館の威容をまのあたりにしまして感無量のものがあります。

本日開館記念式にあたり、本図書館の建設に情熱を傾けられ、格別のご尽力を賜りました林前館長、また、ご定年をこの3月末日に迎えられます高村現館長は、ご就任以来、本当に日夜ご尽力を賜わり、本日の完成をみましたことに對し、また、今日の基礎を築かれた歴代館長はじめ図書館商議員並びに本館の建設をご支援くださいましたご列席の各位に深甚な謝意を表するものでございます。

本学附属図書館の益々の発展を祈念し、挨拶と感謝の言葉といたします。

## 式 辞

京都大学附属図書館長 高 村 仁 一



開館にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

京都大学の長い間の夢の一つが、この美しい装いと豊かな機能をそなえた図書館として、ここに開館の運びとなりました。新館の実現までには、色々と曲折がございましたが、とくに本日ご来臨を賜りました皆様お一人お一人が、それぞれの

時代に図書館の将来について心を砕いて下さり、やがてそれが大きな潮流となって、ついに昭和56年度の施設整備事業として文部省の認めるところとなり、今日こうして、新しい図書館を皆様にご披露申し上げることができるようになりました。洵に感慨深いものがございます。とくに館長として3期9年間、附属図書館のためにご尽力下さった林良平前館長時代の商議会において、綿密な検討を加えられ、前田、岡本両総長時代をへて、沢田現総長時代に新営構想が策定され、2年の歳月と27億の巨費を投じて、昨年10月に竣工をみたものでございます。

新らしい図書館像の確立にむけてご尽力を頂いた林前館長はじめ歴代館長・商議員の方々、さらにはこの新営構想を実行に移すことを決断された